

「保護者のみなさん一緒に考えてください」その3の②

前回のつづきをお読みください。



(3) 生徒の活躍の場を増やしていきます

昨年度からコロナの影響で行事を縮小したり中止することもありました。しかし、体育大会をはじめ、実施できた行事での子どもたちの頑張りは素晴らしかったですし、その都度大きな成長を感じました。このような行事はもちろんですが、日ごろの学級での活動や委員会活動、そして部活動などで、子どもたちが活躍できる場をできる限り増やしていこうと考えます。また、たとえ行事の数を増やせなくても、現存の活動の中でも工夫次第で子どもたちが主体的に活動する場面は増やせます。例えば、授業の中でも、先生が教え込むような授業スタイルではなく、ペア学習やグループ討議などの場面を作り、子どもたちが意見を出し合ったり、友達の考えを聞く中で自分の考えを膨らましたり、違う気づきがあったりなど、能動的に自ら学びを得るような授業づくりを学校ではめざしていきます。



そして、子どもたちが活躍できる場を増やすと同時に、子どもたちどうしがぶつかり合う場も大切にしたいと思えます。コロナの影響もありますが、子どもたちどうして議論し、考えをぶつけあうような場面が少なかったように思います。意見や考えを出し合うと、時にはもめたり、対立するようなことも起こってきます。しかし、そのような場面こそが子どもたちの成長には必要で、互いの気持ちを尊重したり、折り合いをつけたり、自分の考えを強引に貫くだけでなく、譲ることを覚えたり。このような活動を通じて、互いの距離はより縮まり、安心できる関係が築けていきます。ここでも「自律」や「思いやり」が大切になってきます。

子どもたちの活躍する場、ぶつかり合う場をできる限りつくっていきたいと思えます。

そこで、保護者のみなさんへ

ここまで書きました(1)(2)(3)について、今後学校では注力していきたいと思えます。そこで保護者のみなさんにもご協力いただきたいのです。3つのうち(1)と(2)については、ご家庭でも特に意識していただきたいです。



(1)の「ありがとう」を増やす。

各ご家庭でも「ありがとう」をはじめ、肯定的評価の言葉を増やすことを意識していただければ幸いです。保護者の方だからこそ、子どもたちのあらゆることが気になり、つい注意したり、叱ったりという場面が増えがちだと思います。もちろん必要な時にはしっかり叱ってください。しかし、「頑張っていることはないかな」という、少し柔らかいまなざしで子どもたちの行動を見てあげていただくと、「よく頑張ったね」とか「ありがとう」と声をかける場面がきっと出てくると思います。保護者のみなさんにはとても差し出がましいお願いになっていますが、これまで以上に意識して、子どもたちを見てあげてほしいと思います。ご家庭でも肯定的評価を増やしていただければうれしいです。



(2)の「自律」と「思いやり」について

「思いやり」を家庭、家族の中で大切にすべきなのは言うまでもありません。家庭で特に意識していただきたいのは「自律」です。できる限り「自分で考える」、「自分でする」という場面を家庭でも増やすようにしてください。個人差はありますが、もう中学生ですから、自分でできることが増えていると思います。例えば、朝起きるのも、保護者の方が起こしてくださっているなら、自分で起きるようにさせてください、寝坊して遅刻したなら、それは自分の責任です。「遅刻して先生に叱られる」というような痛い経験も必要です。家庭においても、自分で考える、自分で判断する、自分で行動するという場面を今以上に増やすようにしてください。そして「責任」というものを、自分で背負うものと感じさせてください。自分で「責任」を背負うということは、大人になっていくということです。そうした「自律」した行動、態度がとれるようになれば、おのずと「自立」した人間へと成長していきます。ぜひご家庭でも意識してください。



ここまで長々と書きましたが、最後まで読んでくださりありがとうございます。うまくまとめることができませんが、本校の子どもたちの「自尊感情」「自己有用感」を高めたい一心で書きました。これから「自尊感情」「自己有用感」を高めるには、保護者のみなさんのお力添えが必要です。何卒よろしくお願いいたします。



この「保護者のみなさん一緒に考えてください」シリーズもいったんこれで終了させていただきますが、今後も学校の取り組みや私たちが考えていることなどは、積極的に発信させていただきます。そして、何度も書いておりますが、保護者のみなさんと力を合わせ、手を取り合って子どもたちの成長を支援したいと強く願っております。機会がありましたら、ぜひご意見やご感想をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。